

2023年 9月14日

2023年度 会派おおぞら 管外研修報告書

報告者 前野 文孝

1. 研修期間 : 2023年 8月29日(火)～8月31日(木)
2. 同行会派 : ひかり(2会派合同視察)
3. 研修自治体

(1)函館市

市役所 : 〒040-8666 北海道函館市東雲町 4-13

人口 : 241,747人(住民基本台帳人口、2023年7月31日)

面積 : 677.86平方キロメートル

概要 : 面積は豊岡市とほぼ同じであるが、人口は約3.5倍である。
北海道では札幌市、旭川市に続いて3番目の都市。

北海道南端にあり、函館港という良港に恵まれ、本州の接点として発展した。歴史的にも幕末においてアメリカのペリー提督が黒船に乗って襲来し、長崎・横浜に続いて開港された。よって多くの領事館や教会の建物が残っている。幕府により五稜郭も築かれている。

交通の要所というだけでなく、北洋漁業の基地として大いに栄え、それに伴い造船業も発達したが、200カイリ規制やオイルショックによりそれらの基幹産業が衰退し、今では歴史的な建物や、風光明媚な港の風景を元に観光のまちとして栄えてきた。

しかしながら、40万人を超える中核都市として栄えてきたが、急激な人口減少に見舞われている。

(2)当別町

町役場 : 〒061-0292 北海道石狩郡当別町白樺町 58-9

人口 : 15,347人(住民基本台帳人口、2023年7月31日)

面積 : 422.86平方キロメートル

概要 : 札幌市都心から20・30kmほどの距離にあり、札幌市のベッドタウンとなっている。自然豊かな町で、生花、米の生産が盛ん。北海道医療大学の当別キャンパスが存在していて、提携し、「当別町二万人歯の健康プロジェクト」を推進するなどの活動も行っている。

洋菓子のロイズの巨大な工場があり、企業城下町のロイズタウンが形成されている。

3. 研修内容

(1) 「函館市中心市街地活性化基本計画の推進状況について」

ア. 計画立案・実施・その効果について

説明者：函館市 経済部 商工振興課 主任 米谷 瞳 様

<背景>

函館市の中心市街地は2カ所あり、一つは函館駅周辺と大門地区、そして五稜郭周辺・本町・梁川地区の2拠点ある。その2拠点は路面電車につながっている。

函館市の説明にも記述したが、市の繁栄を支えてきた北洋漁業と造船業が衰退し、人口減少とまちの活気が失われた。それに加えて大型店舗が郊外にできて、都市のドーナツ現象が顕著になり、中心市街地から賑わいが失われ続けた。

そんな折、函館駅前に2店舗、五稜郭に1店舗あった百貨店などの大型店舗が営業を終了し、両市街地から活気が失われてしまった。

<計画>

- ① 計画名称 : 函館市中心市街地活性化基本計画
(平成25年3月29日 内閣総理大臣認定)
- ② 計画期間 : 平成25年4月～平成30年3月(5か年)
- ③ 計画区域 : 約200ヘクタール
- ④ 基本コンセプト :
一市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり
- ⑤ 基本方針 :
 1. にぎわいある集客拠点の創出
 2. 新たな交流を生む都市空間の創出
 3. 魅力ある生活空間の創出

<主な事業内容>

1. 「キラリス函館」(函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業)

民間企業 株式会社NA アーバンデベロップメントにより WAKO 跡に建設された地下1階、地上16階建ての再開発ビル。地下～2階は商業施設、3階は「函館みらい館」、4階は「はこだてキッズプラザ」の公共施設。5階以上はマンション。

2. 「函館みらい館」(はこだておもしろ館整備事業)

「キラリス函館」3階にある公共施設。先端技術による子ども向け施設。

3. 「はこだてキッズプラザ」（子育て世代活動支援プラザ整備事業）

「キラリス函館」の4階にある室内遊具施設。授乳室・おむつ替え室・子育て相談室・託児室などがある。

4. 「シェスタハコダテ」（函館本町地区優良建築物等整備事業）

「グルメシティ五稜郭店」跡に建設された地下1階、地上19階のビル。地下1階は「グルメシティ」、2～3階は「無印良品」、4階は公共施設である「はこだてコミュニティプラザ」を整備5～19階はマンションとして整備された。

5. その他

この他にも路面電車の停留所の整備や、第3セクターのまちづくり会社による大門横丁という屋台村の運営や、各種イベントなどを行っている。

<成果>

具体的な数値目標 KPI を定めて成果を評価しておられた。中心市街地の年間観光入込客数、中心市街地の歩行者通行量、路面電車の乗降人数等は目標を達成されていた。

中心市街地活性化基本計画は一定の成果を上げたと判断されており、イベントの実施などは継続されている。

平成30年3月にコンパクトなまちづくりへと誘導していくための計画である「函館市立地適正化計画」が策定され、持続可能な行政運営が可能となるよう、人口密度の低下が懸念される外環状線（産業道路）沿道から南側の区域に居住機能・都市機能の集約化を進めるようにされている。

<所感>

中心市街地の賑わいを取り戻すために大きな資本をかけ、人的な労力もかけて努力されていると感じた。しかしながら、一度失われた人の流れを取り戻すことは困難なことであり、それに正面から取り組まれてきたことに敬意を表したい。さらには、函館市の代表する中心市街地を誇りが持てるようにしたいという全市民が協力する姿も素晴らしいと思った。

豊岡市も中心市街地や、旧町の市街地も活気を失いつつあるが、活性化の為に施策を展開し、取り返しのつかないような事態にならないようしなければならぬと感じた。

基本コンセプトのイメージ図





函館市役所



函館市議会 議場



研修中の様子



閉店したままの大規模商業施設

(2) 函館市駅前の子育て支援施設見学

説明者：函館市議会事務局 調査課 主任主事 吉田 修一 様

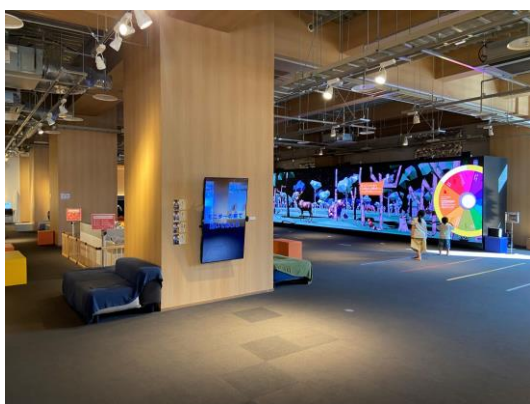
1. キラリス函館

駅前にあった大規模商業施設を民間事業者が撤去、再開発したものの、3階と4階のフロアを市が買い上げて、施設整備を行った。



2. 函館みらい館

キラリス函館の3階に整備された施設。画像技術やIoTを使った子ども向けの体験施設。大きなディスプレイがあり、動物とかけっこをしたり、体を使ったゲームをすることができる。そのほかにもお絵かき体験や、身長をセンサーで自動で測ったり、函館の名所を180度スクリーンで楽しむことができる施設もある。様々なイベントが開催され、3Dプリンターやドローン教室なども開催されている。



施設内の様子



大型スクリーンで遊ぶ子どもたち



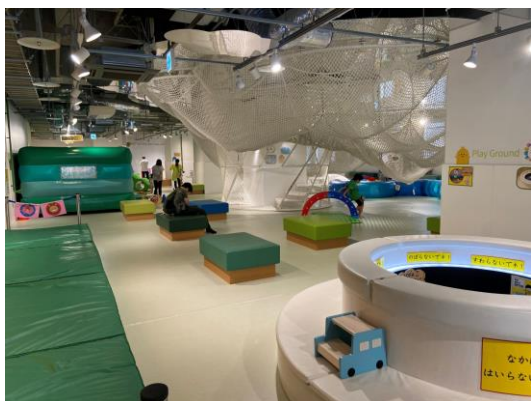
函館の名所を180度スクリーンで体験



自分のデザインした魚が水槽で泳ぐ体験

3. はこだてキッズプラザ

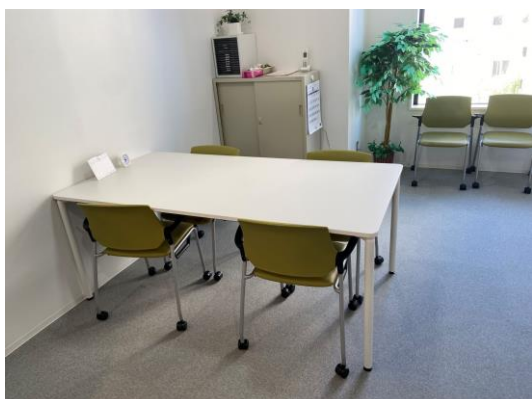
キラリス函館の4階に整備された施設。大きな遊具とネットを張り巡らした遊具がある。豊岡市のワックトヨオカとどんぐりBASEを合わせたような施設。この他にも育児相談室や託児施設、授乳室、おむつ交換室も併設されていた。



大型のネットの遊具



大きな遊具がたくさん設置されている



子育て相談室



たくさんの遊具がおかれた託児室

<所感>

平日のお昼でしたが利用者は比較的に多かった。函館みらい館は年間60,000人以上の利用者があるとのこと。中心市街地への人流の誘因に一定の役割を果たしている。イベントを開催し、POPを手作りにして親しみやすくするなどのスタッフの皆さんの工夫がその裏にはあるようだ。

今後の課題としては飽きられないように適当なタイミングで遊具を更新することとのこと。

豊岡市の同様の施設でも運営やPRなど工夫を凝らして利用者の増加や維持に努めていかねばならないと感じた。

【質問と函館市からの回答】

① 函館市では計画そのものもかなり綿密に立案されただけでなく、協議会に産業界、学界、金融機関、不動産関連会社などが参加し、推進されてきた。その理由は何か。

- 民間事業者、地域関係者、行政などの地域が一体となってまちづくりを推進し、中活計画に掲げる目標を実現するため、H23.11月に函館市中心市街地活性化協議会を設立した。都市機能の増進を推進する「TMO」と、経済活力の向上を推進する「商工会議所」（事務局）により組織し、市が中活計画を策定する際に意見を述べてきた。

② 計画期間は平成25年4月から平成30年3月まで（5か年）。その後の中心市街地の活性化の推進はどのようになされているのか。

- 中活計画期間終了後においても、中心市街地の活性化は継続して取り組む必要があり、都市計画、産業振興の観点からも重要な地域であることから、中活計画のコンセプト「市民生活と歴史・文化、観光が誘導した回遊性の高いまちづくり」を継承しながら、立地適正化計画における都市機能誘導策や居住誘導策を推進するなど様々な取組を進めている。

③ 中心市街地の活性化に相当の事業費を投入されてきたが、周辺地域の理解をどのように得られたのか。

- 中活計画策定にあたり、商店街組合やまちづくり団体等から中心市街地活性化に関して、広く意見を聴取するため、中活協議会の前進である中心市街地活性化懇話会を設置したほか、地域と一体的にまちづくりを推進するため、中活協議会から意見をいただきながら進めてきた。これらの構成員には、地域の商店街振興組合のほか、町会団体なども参画していたことや、成案化にあたってパブリックコメントを実施するなど広く意見を聞きながら計画を推進してきた。

④ 公益社団法人北海道宅地建物取引業協会函館支部が協議会に入っているのは素晴らしいが、実際に果たした役割と成果はどうか。

- 中心市街地活性化協議会は、地域が一体的にまちづくりを推進するため、行政、商店街組合、まちづくり会社、観光団体、高等教育機関、金融機関、福祉団体、町会団体、不動産団体など様々な関係団体で構成しており、不動産団体として参画している宅建協会は、中活区域における主に空家・空地などの不動産流通に関する助言などをいただいたところである。

⑤ 株NAアーバンデベロップメントはどのような会社か。特にこの企業を協議会に参加してもらい、事業展開においても大きな役割を担ってもらった理由は何か。

- 株NAアーバンデベロップメントは、平成17年12月に設立した、まちづくり、商業施設の運営管理や企画、不動産・経営コンサルタント業務を行う株式会社であり、キラリスを整備した第一種市街地再開発事業の実施主体であるほか、本町地区のシエスタを整備した優良建築物整備事業の実施主体であるSPC株の代表と同一人物となっている。

中心市街地活性化協議会の設立にあたり、法の規定に「民間事業者、デベロッパーを含める」ことが明記されていたこともあり、核となる施設整備の中心となる方として参画いただいている。

【市街地環境整備について】

⑥ 函館グリーンプラザとして公園の整備を行われたが、函館市街地における公園の整備の考え方は。

- グリーンプラザは、市民が憩い楽しめる広場として設置したもので、様々な屋外イベント（飲食イベントや音楽イベント）に利用いただいている。（公園としての整備とは異なる。）市内における公園整備は、緑の基本計画に基づき、主に、
- ・都市公園のユニバーサルデザイン化を検討
 - ・幅広い年齢層が楽しめる公園づくり（少子高齢化時代；健康器具の配置）
 - ・後援の長寿命化などに努めている。

⑦ ユニバーサルデザインについての函館市の整備状況は。

- ユニバーサルデザインに関する実績の主なものは、「観光案内板」、「ユニバーサルデザインタクシー」「電車整備」「ノンステップバス」のほか、「都市公園」（緑の基本計画）や「公共施設」（総合管理計画）の修繕や更新時にはユニバーサルデザイン化を図ることとしている。

【都市福利施設整備について】

⑧ はこだてキッズプラザ、はこだてみらい館などの子どものための施設を整備した効果は。効果を上げるための工夫はどのようにされているのか。豊岡市もWACCU TOYOOKAという施設を整備した。

- 前市長の政策の一つとして「キッズプラザ」と「みらい館」を整備した。主に、中学生くらいまでの子どもと親が来街するきっかけとして、みらい館年間6万人、キッズプラザ11万人が利用し、賑わい創出に繋がっている。入館者を増やすため、魅力あるコンテンツや修学旅行生への広報周知などの取り組みに力を入れている。

【中心市街地における住宅供給について】

⑨ シエスタハコダテの事業スキームはどのようなものか。また、商業エリアの店舗の賃料が高くなったという評価もあったが、課題は何か。

- 前市長の政策の一つとして「シエスタ」を整備した。
ビル全体の総事業費が約 52 億円で、うち国・市からの補助金が 9.3 億円
ビル内の 1 フロアを公共施設（Gスクエア）として 10.5 億（国 3.6 億）で購入・整備。
若者の自主性・社会性の向上，市民の多様な活動の場，交流の場として，年間 1 4 万人が専用利用し，賑わい創出に繋がっている。
商業エリアの店舗の賃料が高くなったという評価については不明。

⑩ 街なか居住支援事業として補助を行っているが，その内容と効果は。

- ヤングファミリー住まいりんぐ支援事業として，中学卒業前の子と同居する民間住宅に居住する世帯を対象に，月 1.5 万円補助している。（最長 16 年の卒業まで）
効果としては，毎年 20 件前後の新規申し込みがあり，西部・中央部地区への若年層の居住誘導や定住化の促進，空き家の利活用に寄与している。

【商業活性化事業について】

⑪ キラリス函館の事業スキームはどのようなものか。成果と課題は何か。

- 前市長の政策の一つとして，「キラリス」を整備した。
ビル全体の総事業費が約 55.3 億円で，うち国・市からの補助金が 17 億円
ビル内の 3・4 階のフロアを公共施設（みらい館，キッズプラザ）として 20.2 億円（国 7.8 億）で購入・整備。
地下 1～2 階：商業施設，3 階：みらい館，4 階：キッズプラザ，5～16 階：マンション
成果としては，中心市街地において，市民や観光客による賑わい創出に寄与しており，主に中学生くらいの子どもや親が来街するきっかけとなり，修学旅行生などに多く利用してもらっている。課題としては，現在，商業施設の空きがあり，新たな入居が難しい状況にある。

⑫ 商店街や各店舗の協力状況はどうか。

- 商店街組合の高齢化や担い手不足などにより，活動を休止する組合も出てきている，地方都市ということもあり，商業の経営が難しく，主に，夜間の飲食店（居酒屋）のみが経営できている状況にあり，商店街などの協力状況は難しい。

⑬ 若者の創業についての現状はどうか。何らかの施策の展開はあるのか。

- H29 までの中活計画期間中は，中心市街地における出店補助金を行った結果もあり，新規出店が増えたが，その後の経営継続などの持続化が難しい状況。
現在は，商店街振興組合が行う補助制度を実施している。
そのほか，若者創業バックアップ助成金として，若者枠を @100 万×3 件予算化している。

⑭ 五稜郭ガーデンの今後は。

- まちづくり会社である「㈱まちづくり五稜郭」が実施主体となり、H27にオープンしたグルメコート、コロナの影響による集客やテナント誘致に苦戦し、R2年に会社が破産したと聞いている。民間企業所有であるため、今後の展開は不明。

【商業活性化事業について】

⑮ まちづくり会社を第三セクターとして設立した理由と意義はどうか。
(豊岡市では三セクと民間事業体と両方ある。)

- まちづくり会社は、中心市街地における商業等の活性化を図り、まちのビジョンに沿ってプロデュースする組織として、商業機能の再生、拡充、個店の魅力向上といった課題のほか、個々の商店では対応できない共通の問題の解決を継続的に図るため、市と商工会議所、地元商店街組合により第三セクターにより設立したものである。

⑯ 安定的な財源の確保のための取り組みはどのようにされているのか。

- TMOの収益は、大門横丁収入4割となっており、今は横丁の収益で安定しているが、更に収益を増やすには新たなイベントや事業を展開する必要がある。
集客に向けた企画としては、空港・ホテル・観光案内所にリーフレットを設置するほか、ホテル宿泊プランに食事券を設定したこと、大門バル、周年企画を開催している。
課題としては、大門横丁の収益に頼っている部分からの脱却することが挙げられるほか、まちづくり会社としての役割を再確認すること。

⑰ チャレンジショップの成果と課題は何か。

- H12~H16まで実施し、19名出店うち4名がチャレンジ後、中心市街地へ独立開業した。他6名も開業し、新規事業者の育成事業としては、一定の成果を上げ目的は達成された。
課題としてはチャレンジ後の継続性で、チャレンジショップ単独事業の範囲ではなく、まち全体としての取り組みが必要。

⑱ チャレンジショップ参加者に対しての指導はどのようにされているのか。

- 出店する方は商売を行ったことのない方であるため、出店当初はTMOが接客の助言などのアドバイスを行っていた。

⑲ タウンマネジャーとはどのような方か。

- 具体的には、TMOの従業員3名がタウンマネジャーにあたると考えている。

⑳ 商店街のシャッターの閉まった店は、店舗部分が倉庫になっていたり、奥に玄関があるなど、住居として利用されているため、貸店舗として貸し出しを望まれないケースがあるが、函館市の状況はどうか。その状況に対する施策はあるか。

- そういった店舗もあろうかと思うが、そのことによって貸し出しが望まれないという声を聞いたことがない。

㉑ 大門屋台村事業は大変うまくいっているようだ。屋台村は街にとっても面白いコンテンツになると思うが、成功のコツは何か。

- 観光客だけでなく、地元の方が来やすい価格設定、大門バルの年3回の開催などの集客に繋がるイベント開催してきた。

㉒ イベントを盛んに行っておられるが、賑わいの持続につなげる工夫は何か。

- 集客に向けた企画を考えるほか、空港・ホテル・観光案内所にリーフレット設置、ホテル宿泊プランに食事券を設定、大門バル・周年企画の開催などにより賑わい創出を図っている。

(3) 「福祉からのまちづくり」 社会福祉法人 ゆうゆう（当別町）

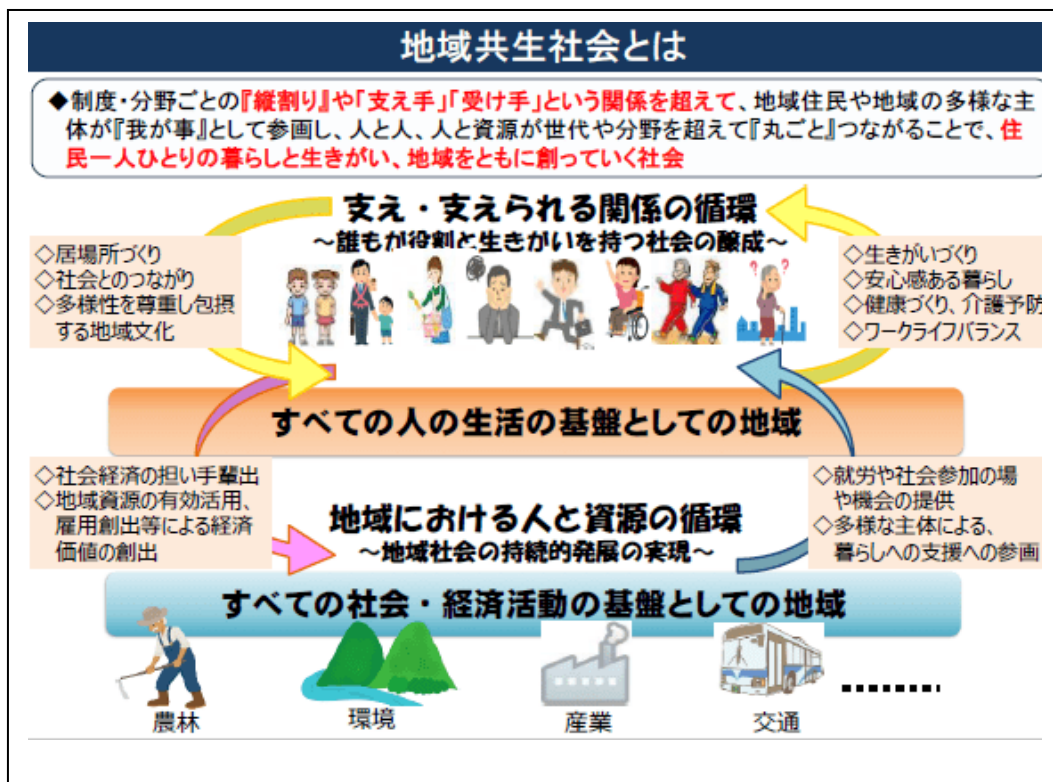
説明者：理事長 大原 裕介 様

ア. 時代の変化と福祉を取り巻く環境について

- ・北海道の人口は2015年に約538万人から約400万人 2045年にはさらに25%減少すると推定されている。
- ・北海道の自治体は札幌市一局集中により50%以下に減ると予想されていて、約北海道の50%以上の自治体が該当。当別町もその中の一つ。
- ・その結果、各市町の財政状況は急激に悪化し、福祉分野もコストカットの対象になっているという感覚がある。

イ. 「福祉事業を推進するだけでなく、いかに地域をデザインして、自治体として維持していくか」の詳細とテーマとした背景

- ・大原理事長は当別町にある北海道医科大学の学生だった。ボランティアとして福祉にかかわったのが最初のきっかけ。
- ・その中で一人の少年に出会った。障がいでだけでなく、いろいろな問題を抱えていた。実はそういう人はたくさんいる。障がい児であるが、親はDVやネグレクトであり、家庭は貧困。そういったケースを行政は縦割りの中で支援しているだけ。それだけでは解決しないし、制度から漏れてしまう人がいることに気が付いた。
- ・ボランティアで仲間と支援センターを立ち上げた。町長や社会福祉協議会の理解があったので成立した。
- ・「縦割り」「支え手」「受け手」という関係を超えて、住民一人一人が暮らしと地域をともに創っていく社会を実現したい。
- ・「地域共生社会」をめざす。理事長は厚生労働省に有識者として議論に参加している。
- ・1979年 北海道は障がいを持つ子どもの教育環境を整えていくとして、市町が養護学校を作り、隣接して入所施設を作る施策をすすめた。その結果、当別町の障がい児は中学までは親元だが、高校は寮生活、その後は入所施設となってしまう。
 - 障害を持つ人たちの人権を無視した施策。両親から離す、希望の学校でない、慣れない寮生活は二次障害を引き起こしていると考える。
 - 偏差値の低い学校が特別支援学校に変わっていく。
- ・公立高校の存立が危なくなっているので、普通高校を特別支援学校にすることはよいことだと考える。親元で暮らし、障害のない学生とともに過ごすことができる。



ウ. 起業した理由はなにか

- ・学生としてやっていたが、助けを求められる人を放ってはおけない気持ち。
- ・0歳から96歳までの切れ目のない支援ができる仕組みを作りたいという思い。
- ・障がいのある子供たちが将来もここで済んでいける社会の実現。
- ・あらゆる住民の方が安心して暮らしていけるように担い手になってもらうサイクルの実現。
- ・地域振興につなげる。そうしないとそもそも福祉ができない。

エ. 経営的に持続できている理由はなにか

- ・福祉は制度ビジネスであり、自由度が少ないが持続していける理由。
- ・黒字になる事業、赤字でも仕方がない事業にしっかりと分ける。
- ・国の制度による事業（例えば特養）等は絶対に黒字でないといけない。しかも、徹底的にサービスをあげながらコストを下げる。「利用者が少なくてもいいや」「忙しいから少し増員」などあいまいな管理をしないように部門のマネージャーには徹底している。
- ・赤字で仕方がないのは制度外のサービス。助けが必要な人を助ける。

でも、これも徹底的に赤字幅を削減する。例えば寄付を募る等。

- ・寄付は経営に使わない。制度から漏れている人の赤字の支援や地域の農業の発展などの支援に充てたい。それがゆうゆうの理念を守ること。寄付の中には利用者の方が少額だが多くあったのがうれしい。預けたら預けっぱなしではなく子どもの未来に責任を持つような主体性を持ち、能動的に参加してほしい。
- ・特養（赤字）→黒字でないといけない。
- ・利益を赤字でもよい事業にあてる。
- ・赤字になる法人は経営感覚を鍛えるべき。自治体が補填するようなことは避けてほしい。

オ. **人材の確保**・

- ・グループ全体で300人の社員を抱える。毎年5名程度の新卒採用をしている。今毎年100名の募集があり、若者の移住定住の希望者が多い。
- ・採用のためにはおいでというだけでは難しい。インターシップを大切にしている。田舎暮らしや福祉の仕事の魅力を伝える。
- ・インターシップの間、学生はバイトは休み、生活費も必要。学生は厳しい。厚生労働省とともに、当別町でインターシップの費用を免除する仕組みを研究している。
- ・採用には投資が必要。有料サービスで福祉分野の就業支援を行う事業を考えている。
- ・ロイズから障がい者雇用を推進したいとオファーがあり、実績を上げている。福祉を充実させることで街のブランドアップ。障がいのある子の家庭が移住してくるような流れを作りたい。

カ. 当別町ボランティアセンターについて

- ・社協のボランティアセンターとゆうゆうのボランティアが同居した施設。
- ・専門家でなくてもできるサービスがある。例えば地域全体で支えていけばデイサービスは必要がない。
- ・そこに行けば学べる、ボランティアに参加できる、地域活動に参加できる。
- ・専門分野ではなく、分野を横断したボランティア養成講座を行う。今、地域で支援している人が講師でよい。

キ. ペコペコの畑

- ・ハイシーズンは予約でとれないくらい。
- ・飲食業は競争が激しい分野。クオリティーにこだわる。腕の良い料理人を採用し、ちゃんとレストラン・パン・カフェをやる。その中で障がい者に何ができるのかを考える。
- ・もう一つはマーケティングをしっかりとやる。その場所で何が売れて、どれくらいの価格なのかなどをしっかりとプランニングする。
- ・メインのメニューのお皿を6つに分けたのは障がい者の仕事のやりやすさのため。複数の仕事は難しいが、一つの仕事ならば素晴らしいクオリティーを実現してくれる。シェアワークが大切。

※実際に後ほどランチに伺ったが、とても素敵なカフェで、とてもおいしい料理であった。そして、配膳から盛り付け、素材の仕込みなど、多くの障がい者のかたが生き生きと働いておられた。むしろ、他の同様のレストランよりも障がい者の方が接客など、重要な仕事をされている印象であった。



ペコペコの畑



明るくて素敵な店内



季節の小鉢御膳



厨房で働く人たち

ク. 農業と林業と福祉（生活介護事業所によきによき）

- ・土地はすべて購入。後樂園球場3つ分の広さがある。
- ・技術習得のため農業者を派遣し、野伏さんが支援してくれた。おかげで農業委員会も認めてくれた。
- ・コメが15～16トン、トウモロコシ数千トン。ほかにも多くの作物を作っている。でも赤字なので規模拡大をしていきたい。
- ・作付けから出荷が障がい者の方々の作業の中心。人手が必要なもの（ニンニクのばらし、豆の選別等）。
- ・ユニバーサル就農。認知症や引きこもり。人に会わないし自然の中で働くことの価値。
- ・人手不足を障害者で賄うのは違うのではないか。農福連携は障害者視点で行うべき。
- ・自伐型林業も始めた。引きこもりの子どもたちを林業の支え手に。イベントも行う。
- ・薪ビジネス・養蜂業者との連携（はちみつを頂く物々交換 レストラン・洋菓子）。

※この後、農園の視察も行った。指導される作業員の方が親切に案内してくださった。広大な農地と林野に驚かされた。障がい者の方々が生き生きと作業されていることが容易に想像できた。



広大な農地と作業員の関原氏



倉庫内

ケ. 渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学店

- ・名建築家の熊健吾氏が東大教諭を定年の時に長谷工と一緒に提案してくれた。
- ・プロポーザルで募集され、実現した。
- ・熊健吾氏も感銘を受けたと評価いただいたようだ。

コ. ファミリーサポートセンターについて

- ・ファミサポの講習を受けた人が介護をやったりしている。
- ・親のサポートで子どもが変わってきている。
 - 子どもの健全な権利を守っていく。
 - 子どもを中心として考える
 - たった30分のストレス発散で虐待がなくなる
- ・放課後デイやイベント参加で地域の方が支援。
- ・虐待でネグレクト、先天的な障害がない子ども。でも支援が必要。
- ・障がいのある親は障がい者支援、子どもは放課後デイサービス、送迎はファミサポで支援するなど、包括的に支援している。

サ. 行政との連携について

- ・当別町との関係は普通だと考える。
- ・委託事業とは自治体がやるべきことを、スキルのある専門的なセクターに実施してもらうこと。ですので、専門家でない自治体職員に業務内容について細かく言われる必要はない。そういったしっかりとした信頼関係を持ち合うことが必要。

<所感>

福祉事業者こそ経営感覚が必要だということがよく分かった。理事長はしっかりとした経営者であった。

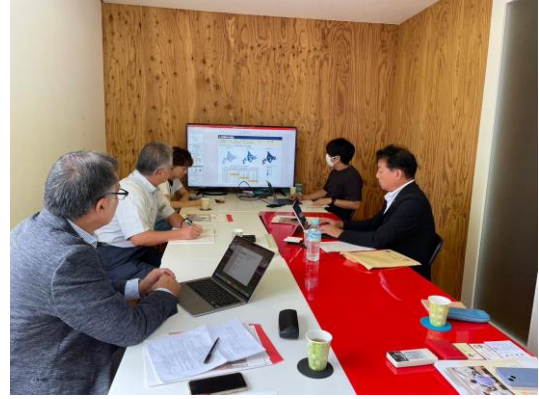
もちろん、障がい者、支援の必要な人に寄り添うことを最も大切にし、そのためには制度では救えない人たちも含めて支援する仕組みの構築に腐心されている。

高い理想と理念を持つからこそ、地域からも支援され、多くの若者や市民が職員として組織に入ったり、ボランティアで集まったりしているのだと思う。

私たちも議員として、福祉がどうあるべきか、どのような支援が必要か、大局に立って知識を深め、施策に反映していきたい。



説明していただいた大原理事長



説明を受ける様子



施設の前にて撮影



放課後デイサービス施設

以上